

おわりに

これまでもホームかなざわにおける高機能発達障害者への支援については、毎年報告をしてきました。利用される方々がどんなことに困り感を持ち、そこに支援員がどう寄り添っていくかということや、別の生活の場への移行を希望された方に対してどのような支援を行ったかということ、自分たちの言葉で綴ってきました。私たちホームかなざわの支援者が、利用される方々を通じて知らされたことの一つに、「誰かに相談して何かが解決した」という経験を持つている方が少ないということがありました。このことから、日々の支援において困りごとや納得いかないこと等、様々なことにじっくり寄り添うことを大事にしてきました。通常のグループホームより、面談という形でお一人お一人と向き合う時間はだいぶ長く、手厚かったと言えるでしょう。こうしてそれぞれの方が生活の様々な場面でのスキルを得ていったのですが、支援員からみると別の場所での生活が十分可能と判断できる方でも、「このことが解決しないと次には進めない」ということを自らに課し、結果長期利用をされるという方もいらっしゃいました。本書では、このような状況にある方に支援者が一つの手法に基づき、生活移行への動機づけを試みた実践を報告しました。こうしてたくさんの実践を積み重ねてきたホームかなざわですが、今年度利用されていた三人の方の転居を持って廃止とさせていただきます。とはいえ、ケアサービ

ス推進事業課では、今後も高機能発達障害の方々への支援について考え続け、実践し、少しでも当事者の方々の安心な生活に寄与していきます。

一方、糸賀一雄思想の普及・啓発事業として行ってきた各分野の実践者へのインタビューですが、今年度の方々はそれぞれの背景やスタンスが少しずつ重なっていることに気づかれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、誰お一人として同じ実践ということではなく、モチベーションは一緒でも辿るプロセスは違う。だからといってどちらがより正しいということではないことも、それぞれの理念に裏打ちされた実践から読み取ることができたのではないのでしょうか。まだまだ滋賀にはたくさんの魅力的な実践者がいるはずで、その一つ一つを丁寧に探り、お話を伺い、つながって行くことで、滋賀の福祉がますます元気になっていくと信じています。

最後になりましたが、エピソード掲載を承諾くださったホームかなざわの元利用者の皆様やインタビューに応じてくださった実践者の皆様、ホームかなざわでの十年以上にわたる実践を可能としてくださいました、家主の中澤幸平様に感謝を申し上げます。

二〇一八年三月

社会福祉法人グロー（GLOW）

～生きることが光になる～

法人本部企画事業部ケアサービス推進課